



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月31日

上場会社名 虹技株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5603 URL <https://www.kogi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 幹雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務担当 (氏名) 谷岡 宗 TEL 079-236-3221
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	12,652	19.1	200	795.8	155	—	90	—
2022年3月期第2四半期	10,622	—	22	—	△47	—	△65	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 840百万円 (148.0%) 2022年3月期第2四半期 339百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	27.62	—
2022年3月期第2四半期	△19.88	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	32,404	14,848	35.3	3,497.38
2022年3月期	31,247	13,783	35.3	3,329.99

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 11,435百万円 2022年3月期 11,036百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,800	15.9	550	256.3	450	402.2	270	517.3	82.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	3,362,163株	2022年3月期	3,362,163株
2023年3月期2Q	92,287株	2022年3月期	47,963株
2023年3月期2Q	3,289,854株	2022年3月期2Q	3,314,317株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されるなど、経済活動の正常化に向けた動きが見られたものの、ウクライナ情勢の長期化による原材料や原油価格の高騰、外国為替市場での急速な円安進行などにより、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このようなもとで当社グループは、『C&Eへのこだわり』をキーワードに、①脱炭素社会に向けて、②DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進、③人材育成、の3点を重点課題に設定した第7次3カ年計画(2022～2024年度)を新たにスタートさせ、より強固な経営基盤の構築と成長戦略の具現化に努めてまいりました。

このような事業環境において当社グループは、原材料高騰への対応として、製品の販売価格は正による収益の確保並びにコスト改善諸施策の一層の推進に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高 126億5千2百万円(前年同期比 19.1%増)、営業利益 2億円(前年同期比 795.8%増)、経常利益 1億5千5百万円(前年同期 経常損失4千7百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益 9千万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失6千5百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①Casting Field

鋳型は、鍛鋼、特殊鋼用鋳型の需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。ロールは、主要顧客先の国内高炉メーカーおよび国内電炉メーカーの需要が好調で、売上高は、前年同期を上回りました。自動車用プレス金型鋳物は、主力カーメーカーの新規開発車種の受注が活況で、売上高は、前年同期を上回りました。大型産業機械用鋳物は、工作機械および鍛圧機向けが好調で、売上高は、前年同期を上回りました。小型鋳物は、下水道鉄蓋や機械鋳物で価格正もあり収益を確保しましたが、土木用鋳物が低迷し、売上高は、前年同期を下回りました。デンスパーは、主要顧客先の需要が堅調で、売上高は、前年同期を上回りました。海外事業の天津虹岡鋳鋼有限公司、南通虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車産業が堅調に推移し、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、109億9千3百万円(前年同期比 20.7%増)、セグメント利益 1億6千3百万円(前年同期比 142.8%増)となりました。

②Environment Field・環境エンジニアリング

環境装置事業は、大型案件の受注が前年並みで、売上高は、前年同期並みで推移しました。送風機は、民間設備投資が堅調で、売上高は、前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスバクターは、半導体向けが好調で、売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、11億6千3百万円(前年同期比 13.6%増)、セグメント利益 2千2百万円(前年同期 セグメント損失1千5百万円)となりました。

③Environment Field・機能材料

KCカーボンセラミックスは、主要顧客先の需要が堅調で、売上高は、前年同期を上回りました。KCメタルファイバーは、鉄道用および産業用摩擦材が好調でしたが、自動車向け摩擦材の需要が低迷し、売上高は、前年同期並みで推移しました。

この結果、当事業の売上高は、4億8千2百万円(前年同期比 0.8%増)、セグメント利益 4千万円(前年同期比 422.9%増)となりました。

なお、2022年1月28日に公表した通り、KCカーボンセラミックス事業は、2022年10月3日付をもちまして、株式会社TYKグループの明智セラミックス株式会社に譲渡しましたので、あらためてお知らせいたします。

④その他の事業

当事業の売上高は、1千1百万円(前年同期比 2.0%減)、セグメント損失 1百万円(前年同期 セグメント損失1百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、199億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億2千8百万円増加いたしました。これは、主として受取手形、売掛金及び契約資産が8億2千6百万円増加したことなどによります。

固定資産は、124億9千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億2千9百万円増加いたしました。これは、主として有形固定資産が2億4千8百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、324億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億5千7百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、145億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億5千5百万円増加いたしました。これは、主として短期借入金が10億1千3百万円増加したことなどによります。

固定負債は、30億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千2百万円減少いたしました。これは、主として長期借入金5億8百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、175億5千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ9千3百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、148億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億6千4百万円増加いたしました。

この結果、自己資本比率は35.3%（前連結会計年度末は35.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、本日発表の「2023年3月期第2四半期累計期間における業績予想と実績値との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、第2四半期累計期間の業績および最新の受注動向、製品・原材料市況等を反映させ、売上高について前回発表予想から上方修正しております。

利益面については、当社の鋳物事業における原材料価格の上昇が継続しており、今後の原材料市況、エネルギー単価の高騰および円安による輸入原材料の上昇等を見通すことが困難であることから前回発表予想を変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,123	2,358
受取手形、売掛金及び契約資産	9,670	10,496
電子記録債権	2,524	2,432
商品及び製品	1,177	1,377
仕掛品	1,232	1,378
原材料及び貯蔵品	1,248	1,699
その他	109	171
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	19,085	19,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,968	3,140
機械装置及び運搬具(純額)	4,229	4,315
土地	1,220	1,220
その他(純額)	1,425	1,417
有形固定資産合計	9,844	10,093
無形固定資産	255	287
投資その他の資産		
投資有価証券	1,990	1,987
長期貸付金	1	1
繰延税金資産	0	1
その他	69	120
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,061	2,110
固定資産合計	12,161	12,490
資産合計	31,247	32,404

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,239	4,324
短期借入金	6,370	7,384
未払法人税等	58	50
賞与引当金	255	228
その他	2,968	2,559
流動負債合計	13,892	14,548
固定負債		
長期借入金	2,465	1,956
繰延税金負債	302	321
退職給付に係る負債	478	425
その他	323	305
固定負債合計	3,570	3,008
負債合計	17,463	17,556
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	602	602
利益剰余金	7,308	7,366
自己株式	△55	△98
株主資本合計	9,858	9,872
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	682	690
繰延ヘッジ損益	△5	△10
為替換算調整勘定	463	847
退職給付に係る調整累計額	38	36
その他の包括利益累計額合計	1,178	1,563
非支配株主持分	2,747	3,412
純資産合計	13,783	14,848
負債純資産合計	31,247	32,404

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	10,622	12,652
売上原価	9,319	11,045
売上総利益	1,303	1,606
販売費及び一般管理費	1,280	1,405
営業利益	22	200
営業外収益		
受取利息及び配当金	28	46
その他	25	38
営業外収益合計	53	84
営業外費用		
支払利息	61	73
その他	61	56
営業外費用合計	123	130
経常利益又は経常損失(△)	△47	155
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△47	155
法人税、住民税及び事業税	36	36
法人税等調整額	△6	32
法人税等合計	29	68
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△76	86
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△65	90

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△76	86
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	8
繰延ヘッジ損益	0	△4
為替換算調整勘定	398	752
退職給付に係る調整額	2	△2
その他の包括利益合計	416	754
四半期包括利益	339	840
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154	476
非支配株主に係る四半期包括利益	184	364

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△47	155
減価償却費	702	746
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30	△32
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4	△0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	65	△53
受取利息及び受取配当金	△28	△46
雇用調整助成金	△10	—
支払利息	61	73
支払手数料	33	23
売上債権の増減額(△は増加)	△1,086	△266
棚卸資産の増減額(△は増加)	△36	△724
仕入債務の増減額(△は減少)	617	△22
その他	310	△175
小計	556	△323
利息及び配当金の受取額	28	46
雇用調整助成金の受取額	24	—
利息の支払額	△60	△73
法人税等の支払額	△32	△44
営業活動によるキャッシュ・フロー	515	△394
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△839	△658
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△1	△0
貸付金の回収による収入	0	0
その他	△1	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△842	△663
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	555	821
長期借入金の返済による支出	△312	△650
支払手数料の支出	△2	△102
自己株式の取得による支出	△0	△43
配当金の支払額	△66	△33
非支配株主からの払込みによる収入	—	299
その他	△17	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	157	274
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△159	△764
現金及び現金同等物の期首残高	2,591	3,113
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,431	2,348

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
鋳物	9,029	—	—	9,029	—	9,029	—	9,029
環境エンジニアリング・環境	—	543	—	543	—	543	—	543
環境エンジニアリング・機械	—	435	—	435	—	435	—	435
機能材料	—	—	479	479	—	479	—	479
ソーラー	—	45	—	45	—	45	—	45
その他	77	—	—	77	12	89	—	89
顧客との契約から生じる収益	9,106	1,024	479	10,610	12	10,622	—	10,622
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	9,106	1,024	479	10,610	12	10,622	—	10,622
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	—	0	—	0	△0	—
計	9,106	1,024	479	10,610	12	10,622	△0	10,622
セグメント利益又は損失(△)	67	△15	7	59	△1	58	△105	△47

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△105百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社
管理部門にかかる費用が△86百万円、営業外収益が43百万円、営業外費用が△61百万円含まれており
ます。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Casting Field	Environment Field・環境 エンジニア リング	Environment Field・機能 材料	計				
売上高								
鋳物	10,914	—	—	10,914	—	10,914	—	10,914
環境エンジニアリング・環境	—	551	—	551	—	551	—	551
環境エンジニアリング・機械	—	563	—	563	—	563	—	563
機能材料	—	—	481	481	—	481	—	481
ソーラー	—	48	—	48	—	48	—	48
その他	78	—	1	80	11	92	—	92
顧客との契約から生じる収益	10,993	1,163	482	12,640	11	12,652	—	12,652
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	10,993	1,163	482	12,640	11	12,652	—	12,652
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	—	0	—	0	△0	—
計	10,993	1,164	482	12,640	11	12,652	△0	12,652
セグメント利益又は損失(△)	163	22	40	226	△1	225	△69	155

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△69百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が△98百万円、営業外収益が84百万円、営業外費用が△56百万円含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。